

探訪

経営者

INTERVIEW



100年企業を目指して、これからも チャレンジを続けたい

株式会社 第一印刷所

創業以来の印刷に加え、近年はデジタルやマーケティング、イベントの企画・運営等と多方面で事業を展開している第一印刷所。県内印刷業界トップ企業として発展を遂げた当社の業歴は長く、本年、創業80周年を迎えます。

今回は、昨年10月に当社代表に就任した遠山亮社長から、就任時の状況や今後の事業展開などについて、お話をうかがいました。

■ 突然の社長就任となりましたが、当初は ■ 何から手を付けられたのでしょうか

私が昨年10月に当社の第5代目社長に就任してから、早いもので半年以上が経過しました。今回の私の社長就任は、長年にわたって当社のみならず、新潟県の印刷業界と経済界の発展に貢献を果たして

【会社概要】

会社名 株式会社 第一印刷所
代表者 代表取締役社長 とよやま 遠山 りょう 亮
本社工場 新潟市江南区曙町4-6-18
企画開発本部 新潟市中央区和合町2-4-18
創業 1943年12月
社員数 238人(パート等除く)
事業内容 印刷、書籍等出版、広告等販売促進、
デザイン等企画、デジタルほか

ほりはじめきた堀一前社長の急逝を受けたものでしたが、何しろ突然の出来事でしたので、まずは社内全体の業務をこれまで通りスムーズに回していくことが最優



▲新潟市江南区のあけぼの印刷団地にある当社の本社工場

先事項でした。

もちろん、私も就任前は取締役・総合監理本部長として社内全般を統括する立場にいたのですが、やはり社長となると統括する範囲が営業・企画部門、製造部門に加えて、対外的な行事に至るまでとても広範になりますし、自ずと役割も責任も異なってきます。このため、各部門を統括している本部長たちと相談し合いながら、ひとつひとつ業務の分担などを決めていきました。最終的にすべての業務の仕分けが完了するまでには2ヵ月程度を要しましたが、各部門に優秀な人材がいますので、特段混乱することもなく、円滑に新しい体制へと移行することができました。

2023年に入ってからは、新潟エリアの企画・営業を担当する執行役員を新たに2人選任し、取締役の役割分担も大幅に見直した新体制でスタートしています。

■ 就任時には、社内にどのようなメッセージを発信されましたか

社長に就任して以来、私は「慣例を見直そう」というメッセージを繰り返し社内に発信し続けています。これは、期せずして経営者が若返ったことをひとつのきっかけにして、長い業歴のなかで社内に根付いてきた文化や制度を、もう一度見つめ直して欲しいという想いを込めて言い続けているものです。

それと言うのも、現在40歳代である私と、70歳代であった先代社長との間には約30歳という年齢差があり、例えるならば昭和から平成を飛び越えて、いきなり令和に突入したほどの世代交代になったと感じているからです。戦略的に若返りを図ったわけではありませんが、私の社長就任を契機として、今まで当たり前だと思っていた社内のルールを見直したり、なかなか実現を果たせずに凍結されていたプランに再挑戦したりなど、前例にとらわれることなく、新しいことにチャレンジし続けて欲しいと思っています。

■ 長い業歴の中で、事業が随分と多角化しています

当社は社名の通り、今日でも印刷業を主業としていることに変わりはありません。しかし、印刷市場の縮小、デジタル化の進展、顧客ニーズの多様化等の流れを受けて、近年では事業の内容が大きく変貌しています。

具体的には、創業以来続くオフセット印刷をはじめ、書籍等の企画・出版、ホームページやシステム制作、DXやAI等のデジタル関連、広告・マーケティング、イベントの企画・運営や事務局代行などと事業の多角化が進み、今では印刷の枠を超えた幅広い分野でビジネスを展開しています。



▲幅広い当社業務の一部。写真左はWEBマーケティングの「日刊にいがた タイアップ記事広告」、右上はプラットフォーム事業、右下は商品開発で手掛けた「タイムスリップ 佐渡島金山すごろく」

■ 自社の強みは、どこにあると考えていますか

総合印刷会社としての当社の強みは、何と言っても品質とスピードを高い次元で実現できる人財にあると思います。デジタル化の進展によって印刷業界が様変わりするなかで、印刷以外の分野にも取り組んでいく必要があります。当社としては、美しさや技術の高さにこだわった「極み印刷」を提供することが最大の使命であると考えて、社内の人材育成と世界最高水準の印刷品質を実現する最新印刷機の導

入を進めてきました。これにより「高品質」の更
上を行く「高品位」のサービスを提供し、お客さま
が期待する以上の価値を創造していきたいと考えて
います。



▲2021年4月に導入した独ハイデルベルグ社の最新鋭枚葉印刷機は世界最高水準の印刷品質と完全自動運転コンセプトによる生産革新を実現。環境負荷も大幅に軽減

また、当社が強みとする高い技術力と最新の印刷機は、雇用面や環境対策にも大きく寄与しています。例えば、完全自動運転コンセプトによる省力化を通じて労働時間の短縮が図られていますし、省電力と生産性向上を通じてCO₂排出量の大幅な削減が図られているため、環境負荷の軽減も実現できています。今後も、よりサステナブルな生産体制を整備していくことにより、当社の強みを磨いていきたいと思っています。

■ グループを通じた総合力にも 大きな強みを持っています

当社では現在、グループ会社7社とともに「D's NET」というネットワークを構成しています。実は、このグループ力を活かした企画・課題解決力こそが、当社最大の強みとなっています。

このグループには、プレスメディア（デジタルオペレーション）、太陽プリント（デジタルプリンティング）、あけぼの（製本）、第一製品流通（配送・BPO）のような生産系の企業に加え、エヌ・エス・ブイ（イベント企画）、ジョイフルタウン（出版企画）、和広（広告代理店）のようなソフト系の企業が参画しているため、企画・提案から編集・デザイン、イ

ベント事務局・運営、広告宣伝等の幅広い業務すべてにワンストップで課題解決に対応することが可能であり、この総合的な企画・提案・実行力が大きな強みとなっています。

このため、今日では本業の印刷を基軸として、イベント・展示会の企画・運営などの業務が増えているほか、最近では企業のアウトソーシングを支援するBPO（ビジネス・プロセス・アウトソーシング）事業が伸びています。これらは、グループの総合力があるからこそ、対応できる業務となっています。

■ 近年では、地域活性化の支援などの 取り組みを積極的に展開しています

当社が運営する「情報工房DOC」は、2003年の朱鷺メッセ開業と合わせて万代島店（現・朱鷺メッセ店）を開設したのを皮切りに、2021年には新潟古町まちみなど情報館店を新設するなど、現在は県内9カ所、県外1カ所の計10店舗を展開しています。



▲情報工房DOCの店舗。写真左上は新潟古町まちみなど情報館店、右上は朱鷺メッセ店、左下は万代メディアシップ店、右下は県央

ももとは、お客さまのそばでお役に立ちたいと考えて各所に拠点を設置してスタートしたのですが、現在はこの情報工房を、地域内の様々な分野と交流・連携を図るための拠点施設と位置付けています。

例えば、ここで販売している「紙にしきごい」は、1枚の紙にレーザー加工を施したオリジナル商品で、糸を引っ張ると平面の紙から立体の錦鯉のモビールが出来上がる仕掛けです。この商品を昨年11月に新潟市で開催された「クールジャパン EXPO in NIIGATA」に出展したところ大きな反

響を呼びました。またレーザー加工製品は、SNSなどで紹介されたことをきっかけとして、全国から問い合わせが寄せられています。



▲当社のレーザー加工技術を活かした商品。空間を泳ぐ紙製のインテリアモビール「紙にしきごい」は外国人観光客のお土産品などとしても好評

このように、新潟ならではの特産品や観光資源等の活用を通じて各地域の情報発信をお手伝いすることで地域の活性化につなげ、新潟県全体を盛り上げていけたらと考えています。

■ 早くから、女性活躍推進などの働きやすい職場づくりが進められています

当社には現在、238人の従業員が在籍していますが、このうちの4割近くが女性で占められています。女性活躍の推進などの取り組みが評価され、2022年3月には「新潟市働きやすい職場づくり推進企業表彰」で市長賞を受賞することができました。

当社の職場環境づくりの歴史は古く、男女平等に向けたポジティブ・アクションに関しては2000年代初頭から取り組みをスタートし、女性社員によるお茶くみの廃止などから進めていきました。その後も働きやすい職場環境の整備を進め、厚生労働省の「くるみんマーク認定」や新潟県の「ハッピー・パート



▲女性クリエイターが企画するオリジナル商品も多数。写真は「にいがたもよう紙風船」

ナー企業」などの認定も早くから取得してきました。

このため、今では女性社員が活躍できる職場という認識が社内外に定着しており、新卒社員の募集では大勢の女子学生が応募してきますし、採用した優秀な女性社員が自身のキャリアを形成していくなかで、自然と管理職に登用されていくというサイクルが社内に確立されています。

■ これから、どのような会社を目指していきたいと考えていますか

当社では、創業以来、「朗らかに稼ごうや」「至誠守約」「和」という3つの言葉を社是に掲げています。これは、約束を守り、社会的な責任を持ちながら、関わりを持つ方々とお互いに励まし合いながら、楽しく仕事を進めていこうという当社の姿勢を表しています。そのうえで、私が大事にしていきたいと考えているのが「共創」の概念です。すなわち、自社だけですべてを成し遂げようとするのではなく、お客さまやパートナー、社員たちと手を取り合い、連携を図りながら、地域の活性化につなげていけたらと思っています。

この点、当社は印刷というビジネスを通してあらゆる業種・業界とつながりを持っていますから、地域のお客さまを笑顔でつなぐ地域“笑”社のような役割を発揮して、ともに地域の発展に尽くしていきたいと考えています。

(2023年5月26日取材 柴山・神保・生亀)